

デジタル技術の活用およびDX推進の取組状況について

株式会社メディジャー 代表取締役 李 晶萍

新型コロナウイルスの感染拡大は、ヒトやモノが世界レベルで動くグローバルゼーション時代を背景に、日本のみならず世界中に感染が拡大し、今もまだ第7波の収束に向けた様々な取り組みが進められています。この未曾有の事態においては、わが国のデジタル化の遅れが改めて浮き彫りになっています。制度や規制等の壁に阻まれて、情報化のスピードが上がらない分野のひとつであったヘルスケア分野に注目が集まっており、「New Normal」に対応した健康・医療・介護のあり方を模索し、AI・IoT等の最先端技術を含めたICT活用によりヘルスケア分野のDXをさらに推進すべき時が来ています。様々な規制により大きな変革が難しかった健康・医療・介護・福祉といったヘルスケア分野においても、イノベーションが求められており、2020年にはデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）の司令塔となるデジタル庁が発足することも決まるなど、大きく動き始めています。センサーやウェアラブルデバイスなどのIoTや人工知能AIの活用が社会全体に広がってきており、健康・医療・介護といったヘルスケア分野においても、最先端技術により新たな価値を創造していくDXを進めることが、イノベーションを大きく後押しすると考えられています。

株式会社メディジャーの取り組み

代表の李をCIO（最高情報責任者）とすることで、従来のセキュリティ管理に加えてDX推進を図ります。デジタル技術が進化するなか、利用者の見守りをIoTと人間の双方で補完し、効率化と24時間365日体制を実現します。バックオフィス業務をクラウド化する事により労働生産性の向上と、働き方改革促進に努めてまいります。具体的にはセンサーやウェアラブルデバイスを活用する事で、従来人の目に頼っていた「利用者の見守り」をIoT化します。また、クラウド会計、勤怠管理、各種資料の共有をクラウド上で行う事で、テレワークにも対応します。さらに材料費高騰のなか、ペーパーレス化等の資源の有効活用を行うことはSDGsの観点からも重要であると考えます。人的・物的資源の無駄の無い活用に向け、デジタル技術を活用することで社会貢献につとめてまいります。

〈組織図〉

